

デーリー東北
2018年(平成30年)12月6日(木曜日)(15)

来春運行開始 ジオパークPRラッピングバス



ラッピングバスのデザイン案発表会

八工大生デザイン2案

むつ

下北ジオパークをPRするラッピングバスのデザイン案発表会が2日、むつ市来さまい館で行われた。八工工業大感性デザイン学部創生デザイン学科の2年生が2案を示し、コンセプトなどを紹介した。ラッピングバスは来年4月の運行開始を予定している。(澤田淳一)

赤い車体、寒立馬や風車
白地に灯台、漁の様子も

下北ジオパーク推進協議会(会長・宮下宗一郎むつ市長)は市立苦生小児童の提言を踏まえ、路線バスを運行する下北交通(白濱啓助社長)の協力を得てラッピングバス導入を決めた。9月には同学科・横溝賢准教授の研究室と連携して東通村と風間浦村でワークショップを行い、デザインに関する住民の意見を集めるなど準備を進めてきた。

デザイン案を提示したのは、高橋祐賢さん(20)階上町と、高野亜子さん(20)野辺地町出身。高橋さんは「資源を循環活用する人とジオの教習」をコンセプトに、赤い車体に寒立馬や風車、海成段丘などをデザイン。高野さんは「ジオサイトと共に暮らす人々の魅力」をテーマに、下北交通バスと同じく、白地に赤いラインで尻屋崎灯台や漁の様子などを描いた。

発表会では横溝准教授らがワークショップの様子を報告した後、高橋さんと高野さんがデザインの理由などを説明。参加者が意見を書いた付箋で気に入った作品に投票した。

当初は一つを選ぶ予定だったが、宮下市長がその場で2案とも採用するよう提案。これを受け高橋さん、高野さんは、来年2月までに提示した案をベースに、デザインを完成させるという。

高橋さんは「2度見、3度見してもらえ、インパクトのあるデザインにしたい」、高野さんは「下北ジオパークの魅力を知ってもらえる、親しみやすいデザインを目指す」と話していた。